大空と希望

No 5

一般社団法人 北海道認知症グループホーム協会
広報誌「大空と希望」2012年2月発行
〒060-0001
札幌市中央区北1条西7丁目1　　広井ビル2F
電話（011）208-3320ﾌｧｸｽ（011）204-7312
URL　http://h-gh.net

相手を思いやるということ

相手を思いやるということ　それは相手のことを考えるということ
相手を思いやるということ　それは相手に期待しないこと
相手を思いやるということ　それは相手に配慮すること
相手を思いやるということ　それは相手に対して謙虚であること

人間はなぜいつも自分たちの好まないことを言われると
かくも残酷でかくも醜悪な応答をし
攻撃的で相手に立ち向かおうとするのかと不思議に思う

近頃は相手に対して謙虚で
まわりとの関係の中で全く鷹揚な
幸せで優しいひとにはほとんど会えなくなってきている

これほど秩序に満ちた地球上で
これほど無秩序の中で生きているのは
人間だけである

感謝

一般社団法人　北海道認知症グループホーム協会
会長　　宮　崎　直　人

特集

地域の「ブロック活動」その2

今回の「大空と希望」は、全道10ブロックで独自に取り組まれている活動の、後半をお届けします。

道南ブロック発　道南ってどうなん？

この一年の衝撃は3月の大震災でしょう。函館でも津波が押し寄せ、直接的な被害は無かったものの、施設の2から3メートル先まで海水が来たと云うところもありました。

道南ブロックは直ぐに、会員さんに支援物資の提供を呼びかけ、被災地に物資をお送りさせて頂きました。被災された皆様には改めてお見舞いを申し上げます。

その他は、真冬と真夏2回のリーダー研修の開催、コーディネーター修了者の協力のもと、グループワーク的なものを取り入れた新人研修、また暑い中共に走った「絆ＲＵＮ・・」への参加、在宅支援事業者とのセミナー、職員交流の忘年会、そして毎年恒例の南北海道認知症フォーラムを開催いたしました。今回で7回目を迎えたこのフォーラムは、風光明媚で「千の風・・」で有名な七飯町の全面協力のもと、様々な「想いをのせて・・」をテーマに疾患別認知症の理解などに７３２名の参加を頂きました。今年度は介護報酬の改定などを控え、慌ただしいところですが、認知症介護の質の向上を目指し活動をしていきたいと思います。ご協力をお願いします。　（平山洋一）

首都大学東京　大学院　教授
繁田雅弘氏

東北福祉大学　教授　加藤伸司氏

札幌ブロック発

SOSネットワークフォーラムに協賛して

雪の多い今冬、皆様、除雪にご苦労をされている事と思います。
札幌ブロックは年明け、猛吹雪にもめげず次年度へ向けて役員会を開催しました。残念ながら今年度は研修会等の活動は行えませんでしたが、昨年１１月３日に清田区ＧＨ管理者会主催の「SOSネットワーク徘徊模擬訓練」に協賛参加しております。
　会員の阿部様より感想を頂戴致しました。次年度は札幌10区の会員様と、より身近に歩んで行く事を目標に札幌ブロック、ファイト！！　　（住友幸子）

「大変です！父が行方不明に」 本番さながらの通報の模擬訓練

＜札幌市清田区会員　GHさくらの里
管理者　阿部　智恵子さん　より＞

札幌市で初めての「SOSネットワーク徘徊模擬訓練」であり不安の中での開催でしたが、沢山の応援と地域の方々の参加も多くあり、講演内容が身近でわかりやすく、徘徊模擬訓練においても全く予想外の展開が見られ勉強になりました。参加された地域住民からは「近所付き合いが希薄な現在、このような取り組みが必要で、住民同士の関係を深めることに役立つのでは」との意見を頂き、今後も避難訓練同様に継続していきたいと思います。

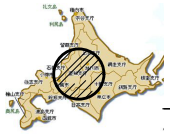
町内の方も徘徊者として協力してくれました
地域の交番のお巡りさんに発見されて「よかった！」

日胆ブロック発

日胆ブロックでは、苫小牧市において5月6月の実践者研修で91名が受講を修了し、管理者研修では39名が受講を修了されました。
　10月には、室蘭市において、認知症介護研究・研修仙台センター所長の加藤伸司先生をお招きし「基本的な認知症の症状の考え方とその対応方法について」と題し90名が講義を受けました。
　11月には、実際の運営は日高地区グループホーム協議会に行っていただきましたが、認知症介護実践事例発表北海道大会を新ひだか町静内にて開催し、全道各ブロックから公募した全16事例の発表が行われました。
　日胆ブロックでは、広域にわたる地域においても総体的にスタッフを育成し、地域全体を皆で創造をしていこうと積極的に研修会を開催してきました。次年度には、もっとスタッフ同士が交流しながらつながりを深められるような機会を作る事が出来ればと考えております。
（荒川裕貴）

実践者研修のグループワークの1コマ

宮崎会長の横で緊張の発表



空知ブロック発

明日へ　～踏み出そうその一歩～

空知ブロックでは、年４回ブロックの全会員へのアンケート調査を行い、ニーズの高い項目の研修会（スタッフ向け研修・管理者向け研修）を開催し、グループホームの職員としての意識の高揚とスキルアップを目指しています。また年に１回介護福祉士会空知支部との合同研修会も実施しています。

今年２月２５日には一昨年より滝川市にはたらきかけてきたＳＯＳネットワークシンポジュームを滝川市の主催で開催できる運びとなりました。３月にはコーディネーターが講師をする研修会も予定しております。

新年度は、より一層地域密着型の趣旨を理解し地域への貢献事業の展開も検討した活動とグループホームの職員間の交流事業を空知ブロック会員みんなの手で作り上げていきたい事は基より、より良いケアの明日へ第一歩を踏み出して行きたいと考えています。

（髙橋芳美）

インストラクターの川口宣広氏

レクリエーション指導をくける受講者

お知らせ

義援金及び支援物資の御礼が届いています

この度の東日本大震災では、ご厚情溢れるご支援を賜り心より御礼申し上げます。

宮城県は殆どのグループホーム事業所で被害を受けましたが、しっかりと絆を繋げることの大切さを学びました。大きな被害を受けた事業所も現在は仮設住宅に転居し落ち着いた生活をしています。今後も皆で力を合わせて復興に取り組んでいく所存です。この度のご支援に感謝申し上げるとともに皆様のご健勝、ご発展を心よりお祈り申し上げます。

NPO法人宮城県認知症グループホーム協議会
会長　蓬田隆子

この度は「東日本大震災」の義援金として、多額のご寄託をいただきまして誠にありがとうございます。
また、必要とする支援物資を２ヶ月にわたり送っていただき、ご厚情溢れる温かいご支援・ご協力を賜りましたこと心より御礼申し上げます。

貴協会様から頂きました温かいご支援については、当協議会の会員へすぐにお伝えし、適切な配分を行い有効に活用させていただきました。

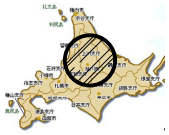
今回は地震、津波、原発、風評と三重、四重の被害となっておりますが、皆様からのご支援を力として福島県内のグループホームがお互いに協力し支えあいながら、今後も一日も早い復興を目指して日々取り組んでいきたいと思います。

この度のご支援に感謝申し上げるとともに皆様のご健勝、ご発展を心よりお祈り申し上げます。

平成24年　2月15日　特定非営利活動法人
福島県認知症グループホーム協議会
会長　　森　重勝

震災以来、本当に貴会の皆様には多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。北海道の皆様から頂いた物資に貼ってあったメッセージが、何よりもあたたかく、大きな励みとして、今でも心に残っております。今回の地震のあと、小規模の事業所は、本当に横のつながりが大事であると多くの事業所が痛感しました。そして、茨城の協議会は、今回のことを教訓に、昨年の夏からＳＯＳ委員会を結成し、様々な対策を検討して現在は、今後に役立てたいと活動を続けています。今後も共に協力しあい、支えあっていけたらと思います。よろしくお願いいたします

特定非営利活動法人
茨城県地域密着型介護サービス協議会
理事長　　立川　士郎



平成２３年１１月６日開催

道北ブロック発

「旭川市春光台地域SOSネットワークフォーラム」

住民組織等が連携して地域での支え合いづくりフォーラム開催－

旭川での「Ｊさんの行方不明事例」をきっかけに一安心して暮らせるまちをめざして地域での支え合いづくりーが全道各地で展開されその取り組みが動きだしていますが、旭川市で初めてのＳＯＳネットワークフォーラム徘徊高齢者等捜索模擬訓練が行われました。　旭川市春光台地域の住民組織、福祉関係者、介護施設・事業所など３５団体の支援のもと実行委員会を結成し、８月から実行委員会２回と５回のワーキング会議を開いてプログラムなどを検討してきました。

会議には実行委員会のメンバーだけではなく上川保健所など地元の行政からも出席していただき、認知症サポーター養成講座、介護劇、徘徊模擬訓練を盛り込んだプログラムを組み立てていきました。当日地域住民など約２７０名が参加し参加者全員が地域での支え合いづくりの大切さを深く感じられたと考えております。

模擬訓練後の意見交換会では「地域住民全体の関心を高める必要がある」「地域のつながりを大切にするシステムが必要」等の意見が出されました。模擬徘徊者からは「優しい声かけがうれしく感じた」「１人でさまよい歩く認知症のお年寄りも同じ思いをされているのではないか」又「なかなか声をかけてもらえないものだなと痛感した」との声もあり地域住民の関心をさらに高めていく必要性を感じました。又地域住民からは「警察などに通報された情報はその後どのようになっているのか」「この春光台地区だけでは対応が無理であるので活動の枠を大きくする必要がある」「せっかくのこの機会をこれからの活動に繋げられるようにしてほしい」などの意見がありました。

上川保健所や旭川市の担当部署からＳＯＳネットワークはよりよいものに改善すべき点はたくさんあるので前向きに取り組んでゆきたいとのお話がありました。今後お年寄りが、安心して暮らしができるよう継続的にその活動を深め広げてゆきたいと思っております。

Jさんの行方不明事例からの3年間の活動がこのフォーラムの成功につながったものと思っております。

（小原陽一）

捜索訓練で行方不明者を探す参加者

徘徊役の方も交えた模擬訓練後の意見交換会

会場を埋める270名の参加者

グループホームをめぐる苦情が増えています　緊急研修会報告

北海道社会福祉協議会に設置されている第三者機関『北海道福祉サービス運営適正化委員会』（以下「委員会」）に寄せられるグループホームをめぐる苦情が増えています。
この現状を広く認識し、対処するため2月21日、日本認知症グループホーム協会北海道支部と共同で研修会が開催されました。

□ 300名近い会員の方々が参加

委員長の米本秀仁氏からは「一つ一つの苦情をどう対応・どう解決していくのかを事業所に伝え全体で考えていただく事が重要で、その仕組みが委員会であること」、「職員の労働環境もサービスの質を落としている一要因である為、間接的に視野に入れた対応がしていること」が伝えられました。

研修会では、ご家族の思いも含め様々な実例が報告され「そんなこともあったのか」と考えさせられる内容もありましたがかけ離れた問題として捉えるのではなく、そこから何を学び、何を持ち帰るのか、そして自施設でのケアや体制を振り返り、ケアの質向上に向け取り組むきっかけにつながる研修でした。

苦情を生み出さないための改革として、提案された主な項目は次の通りです。

○　事業所全体で資質や方針、専門性等を今一度考え、そこにつなげるために職員体制や労働条件を見直すだけではなく、学び合える体制をつくる

○　利用契約の意味を理解し契約書や重要事項説明書の内容を再確認する

○　苦情を隠蔽するのではなく、その苦情に対してどう考え、どう対応していくのかを公開していくことで、開かれた事業所となり、信頼関係の構築につなげる

苦情を発信することはとても勇気のいることです。
「うやむやにされてしまうのではないか」「正面から受け止めてもらえるのだろうか」「実際に利用しており、苦情を伝えることで立場が悪くなる」などの思いが先行するためです。
そして「委員会」はこれら貴重なご意見の最終的な受け皿となっており、その重要性を再認識しなければならないことを痛感しました。

（事業部　杉谷　操）